



熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

平成 30 年度事業計画及び予算

日時：平成 30 年 11 月 16 日(金) PM2 : 00

会場：熊本県庁本館 8 階 8 0 1 会議室

目 次

<審議事項>

I. 平成 30 年度事業計画と予算 -----	1
1. 基本方針 -----	1
2. 情報共有と発信（広報活動） -----	1
3. 交流の場の提供 -----	1
4. P T 支援 -----	2
5. 会員増への取り組み -----	2
6. 総会・企画運営委員会の実施 -----	2
7. 予算 -----	3

<報告事項>

II. 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり 及び再生策検討プロジェクトチーム活動計画について -----	4
III. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム活動計画について -----	5

<審議事項>

I. 平成 30 年度事業計画と予算

1. 基本方針

平成 30 年度事業計画は、企画運営委員会 3 回の開催、通常総会を開催します。また、2 年目に入った 2 つのプロジェクトチーム（以下「PT」と言います。）を支援します。さらに、目的を達成するための新たな PT の設置について検討し、必要に応じて設立に向けた準備を行います。

情報の受発信・交流（提供・仲介）・広報・メーリングリスト、ホームページ（以下「HP」と言います。）等を活用して、行政、大学、研究機関、水産関係、企業、レジャー、NPO/NGO 等関係者、市民間の情報発信・交流を行います。

2. 情報共有と発信（広報活動）

情報発信の基盤としてフォーラム HP（kumamoto-forum.com）を運用しています。引き続き、フォーラム活動経過を最新情報として順次掲載するとともに、企画運営委員会の議事概要、フォーラムの事業報告・活動経過、PT 活動経過等の情報提供を行っていきます。また、フォーラム会員個々の熊本県沿岸域再生に関する活動の情報についても HP やメーリングリストにより情報提供を行います。

◆他団体の紹介ホームページ掲載検討中

団体名：【熊本県漁港建設協会】（フォーラム会員）

（主な内容）

熊本県漁港建設協会は、熊本県内にある建設業 11 社より構成されている団体です。海域環境の回復を目指すため、あまも育成の活動事例を本サイトに紹介を予定しています。

◆アマモサミットへの参加（事業計画の追加）

大阪府阪南市で 11 月 2 日から開催される「全国アマモサミット 2018 in 阪南」において、パネルディスカッション“はんなんの森里川海”で滝川企画運営委員長がパネラーとして招待されています。このイベントに事務局も参加し、フォーラムの活動をアピールするためにポスターとリーフレットの配布を予定しています。

◆その他

活動 PR 戦略 PT と連携した。イベント情報の発信を検討中。

3. 交流の場の提供

地域間、分野間での活動をつなげる交流の場を提供し、熊本県沿岸域の再生を考える他の団体との連携を進めます。シナリオ作成 WG では、以下の内容で交流の場を検討中です。

- ◆検討案その 1：環境と防災の調和した沿岸域再生を目的としたシンポジウム等を計画
 - ・「八代海再生へのシナリオ」出版物の報告会開催（成果報告と技術課題の共有）
- ◆検討案その 2：関係者が一体となったイベントの開催
 - ・イベントを開催している組織との共催の可能性の検討
 - ・ワイズユース（事例：荒尾干潟や球磨川河口など）の視点からの取り組み
 - ・イベント開催場の提供（熊本港湾空港整備事務所）

4. PT 支援

本年度は、2年目の活動に入った2つのPTの支援を行うとともに、フォーラムの目的を達成するための新たなPTの設置について検討し、必要に応じて設立に向けた準備を進めます。

◆活動中のPT

- ①八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり及び再生策検討プロジェクトチーム
- ②活動PR戦略プロジェクトチーム

5. 会員増への取り組み

企画運営委員22委員(6個人,16団体)および、企画運営委員会議オブザーバー3団体、で企画運営委員会を開催しています。これらの委員を含めて現時点では、個人会員:42名、団体会員:28団体(平成30年11月9日現在)となっています。さらに、フォーラム会員の募集を行い会員数の増加を目指します。

6. 総会・企画運営委員会の実施

企画運営委員会を6月、11月、5月の3回の開催を予定します。また、通常総会を、11月に開催します。

7. 予算

熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム

平成30年度事業予算書

【収入の部】

(単位:円)

科 目	H30年度予算	備 考
(1)協賛金	0	
(2)助成金	0	
(3)賛助金	550,000	
(4)雑収入	0	
(5)その他	0	
(A)単年度収入合計	550,000	
(B)前年度繰越金	1,498,007	
(C)収入合計=(A)+(B)	2,048,007	

【支出の部】

科 目	H30年度予算	備 考
(1)フォーラム総会費用	50,000	会場費・印刷等
(2)PT活動費	300,000	会議会場・印刷・事務連絡費
(3)事務局経費	200,000	
1)事務局運営費	72,000	HP運用費・事務用品など
2)旅費交通費	50,000	事例・情報収集等に伴う移動
3)通信費	20,000	事務連絡等
3)印刷製本・消耗品費	50,000	会議資料等
4)雑費	8,000	予備費等
(D)単年度支出計	550,000	
(E)単年度収支差額=(A)-(D)	0	
(F)次年度繰越額=(C)-(D)	1,498,007	

Ⅱ. 八代海湾奥環境改善・保全シナリオづくり

及び再生策検討プロジェクトチーム活動計画について

川岸 PT 長

事業報告の PT 活動状況で報告したように、平成 29 年度は一定の成果が挙げられた。しかしながら、関係市町の住民やその他の関係者への周知、共通認識の形成はまだ十分とは言えない状況である。

そこで、今年度は、住民、関係者への周知及び共通認識の形成を進め、後期から対策の方向性を検討していく予定である。

- ① 住民、関係者への周知については、本 PT の会議に留まらず、機会を積極的に作り、幅広く周知を図っていく。
- ② 共通認識の形成については、八代海湾奥の流域を中心として活動している NPO 等の団体、議会関係者との懇談の場を設け、なるべく多くの方との共通認識の形成を図っていく。
- ③ 八代海湾奥は、環境特性からみて球磨川からの影響も小さくないことから、後期に予定している対策の方向性の検討において八代海湾奥の流域の住民、関係者にも加わってもらいたいと考えており、問題点の共通認識形成の段階から声をかけていきたい。

Ⅲ. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム活動計画について

上久保 PT 長

1. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム（PRPT）の役割

- (1) 県民に有明海及び八代海の現状や課題の再認識を促し、フォーラムが目指す方向性や活動内容を広く周知するとともに、その理解並びに協力の推進を図る。
- (2) 上記活動テーマにかかる情報、地域の情報など、関連する情報を幅広く収集する。
- (3) 収集した情報は、各媒体による効果的手段によって、広く発信する。

2. 情報の収集

関連情報の積極的な収集に努める。収集した情報は分類したうえで、適宜、発信する。
以下はその事例

- (1) 有明海・八代海の水質、地域資源、地域振興、防災などの関連情報
- (2) 沿岸地域における環境学習、イベントなどの情報
- (3) ほかの閉鎖性海域における再生の取組事例など
- (4) その他関連情報

3. 情報の発信

情報は、ニュースバリュー、ニュースソース、内容などに配慮しながら、適正なタイミングで発信する。

- (1) ホームページによる発信
 - ①熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム「<http://www.kumamoto-forum.com/>」
 - ②関係機関の WEB ページへの掲載
- (2) 新聞、テレビ、機関誌、市町広報誌などによる幅広いツールの活用
関係機関の協力を得て、幅広い報道の機会をつくることに努める。

4. PRPT のメンバー

- (1) PRPT の運営に必要なメンバーを組織し、効果的な発信手段を検討する。
- (2) 関連情報を収集し、分析・整理し、保存するとともに、関係機関との交流を通じて情報の発信に努める。

5. 今後の展開

「3. 情報の発信」のためにも、長年実施されてきた『干潟フェスタ』（平成 28 年度から、熊本地震を機に休止中）復活を検討する。また、来年度は、熊本大学 中田先生を中心としたメンバーを募り、プレイベントとして小規模な干潟観察会開催を準備する。詳細については、今後検討する。

Ⅲ. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム活動計画について

上久保 PT 長

1. 活動 PR 戦略プロジェクトチーム（PRPT）の役割

- (1) 県民に有明海及び八代海の現状や課題の再認識を促し、フォーラムが目指す方向性や活動内容を広く周知するとともに、その理解並びに協力の推進を図る。
- (2) 上記活動テーマにかかる情報、地域の情報など、関連する情報を幅広く収集する。
- (3) 収集した情報は、各媒体による効果的手段によって、広く発信する。

2. 情報の収集

関連情報の積極的な収集に努める。収集した情報は分類したうえで、適宜、発信する。
以下はその事例

- (1) 有明海・八代海の水質、地域資源、地域振興、防災などの関連情報
- (2) 沿岸地域における環境学習、イベントなどの情報
- (3) ほかの閉鎖性海域における再生の取組事例など
- (4) その他関連情報

3. 情報の発信

情報は、ニュースバリュー、ニュースソース、内容などに配慮しながら、適正なタイミングで発信する。

- (1) ホームページによる発信
 - ①熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム「<http://www.kumamoto-forum.com/>」
 - ②関係機関の WEB ページへの掲載
- (2) 新聞、テレビ、機関誌、市町広報誌などによる幅広いツールの活用
関係機関の協力を得て、幅広い報道の機会をつくることに努める。

4. PRPT のメンバー

- (1) PRPT の運営に必要なメンバーを組織し、効果的な発信手段を検討する。
- (2) 関連情報を収集し、分析・整理し、保存するとともに、関係機関との交流を通じて情報の発信に努める。

5. 今後の展開

「3. 情報の発信」のためにも、長年実施されてきた『干潟フェスタ』（平成 28 年度から、熊本地震を機に休止中）復活を検討する。また、来年度は、熊本大学 中田先生を中心としたメンバーを募り、プレイベントとして小規模な干潟観察会開催を準備する。詳細については、今後検討する。